



湖月抄

は

2/12

三

+

四





橘姫

宇治一

細

宇治十帖乃多。姫乃大武三位が母として居

あり。師統不肖之^ヲを故ん文祥前よりくわたり。崇徳部が母
にありてとつるが母れども、八世文祥とくわたり。時四代^{ヨクイ}年七
十年傳の事とある故もそるよへ人の例づひるも、不知
しつらりりくわたり。末代よかりかむむとんそくわたり。むか
う等りるべし。孟一等にありてとつる後も面白くおとい
ふ。一等也。崇徳アウカありて。是南家の伝也。細 宇治と
号しつらりる事。花名。菖道^{ウヂ}雅^{ワカ}ののり。とむらりむ有真
花相壺、帝の八宮宇治よ。道世^{ミチヨ}ハ菖道^{ウヂ}雅^{ワカ}みよ。比^ヒと。無神
天皇の皇子み見ハ大鷦鷯^{オホササギ}のミことと。トと。と。と。才の菖道
雅^{ワカ}と。春宮よ。と。と。つら。無神天皇四十二年二月十六日
よ。輕^{カヒ}鴻^ニ明^{アカリ}宮^{ノミヤ}よ。崩^{クラ}と。兄ハ大鷦鷯^{オホササギ}ハ父の沖定めの。と。と。才
即位われとて。難^{ナニ}波^ハよ。引^{ヒキ}勢^セと。と。と。才の菖道雅^{ワカ}み。

橘姫

のらよせん後

細中のまぶさきとて

とてそれと人まゝとて

初く盛これぬよおの方

くせあふとて打捨てを

くかり

くこのまを 細 少方造

世の宿業よそとて

ハまの心にお方の中れ久

てれとてとてとてとてとて

の災もつとてとてとてとて

世の宿業よそとて

このまよとも 細 少方造

け中君とてとてとてとてとて

よ母君のうせまうとてとて

つとてとてとてとてとてとて

一とてとてとてとてとてとて

細 中君あり

べとてとてとてとてとてとて

細

とてとてとてとてとてとてとて

結されとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

結されとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

細 中君あり

まうくみこの
細葉のあふあふ
八丈の熱あがりけり

世どいふ 由冷泉茂の世
まうくみこの
八丈の熱あがりけり
細葉のあふあふ
まうくみこの
八丈の熱あがりけり

てまやぶらうと
あふあふ
八丈の熱あがりけり
細葉のあふあふ
まうくみこの
八丈の熱あがりけり

びくさよあどおめ
まうくみこの
八丈の熱あがりけり
細葉のあふあふ
まうくみこの
八丈の熱あがりけり

まうくみこの
八丈の熱あがりけり
細葉のあふあふ
まうくみこの
八丈の熱あがりけり

細き人へ 細き人へ花
きの養用之を 細き人
ハ貴き人よりよりや
こころにたれしやみよ
めりもそとくはとこい
ふとて人へは智恵も
て物のゆとをやくと
るれく行海後あやま
るく 嘆 過去の善因は
ありてきも人へとせ
るくお智恵もあつた物の
ゆとをえまのす一箇わ
るく

ねどいさ人への心をえまよこのい
しよなよのいさなれだやうく
きなり路さびしよなつひよさそま
つしよ
ほどあつた時 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
くさうさびしよなつひよさそま
らりもつねははせしよなつひよさそま
年比とともあつた時 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
どくさびしよなつひよさそま
あつた人への心 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
あつた人への心 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
あつた人への心 細き人へ 路さびしよなつひよさそま

細き人へ 細き人へ
花き年の異あり 養用
相さく三年中 養用
も伝給く 養用
中納言とみく 養用
秋のまつく 細八月り
四季の七日は 養用
所八宮のいさ 養用

うあも 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
とつしよ 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
よりり 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
路さびしよ 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
も 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
つしよ 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
の 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
さ 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
あ 細き人へ 路さびしよなつひよさそま
あ 細き人へ 路さびしよなつひよさそま

うわさのやうなうらな
表がらうらなの中物
わんどのけわてふと
うらなせ 松よけふ
おまよは葉よめつら
いせてはなきとま
ふせまつと新念
あつてやうてめ
よりうらな
みかき
細葉のうらな
い老人のうらな
そのかよさうら
よまうらな 孟目師
物本のうらな
源とれは葉い
中とあつたあよ
いとあつた

わんどのけわてふと
おまよは葉よめつら
いせてはなきとま
ふせまつと新念
あつてやうてめ
よりうらな
みかき
細葉のうらな
い老人のうらな
そのかよさうら
よまうらな 孟目師
物本のうらな
源とれは葉い
中とあつたあよ
いとあつた

うらな
孟目師
よまうらな
物本のうらな
源とれは葉い
中とあつたあよ
いとあつた

わんどのけわてふと
おまよは葉よめつら
いせてはなきとま
ふせまつと新念
あつてやうてめ
よりうらな
みかき
細葉のうらな
い老人のうらな
そのかよさうら
よまうらな 孟目師
物本のうらな
源とれは葉い
中とあつたあよ
いとあつた

母の女
母の女
母の女

いりあつた納言
細白梅も居るや
師白梅のせむい竹海寒
あつた居るは成りか
れんそむかのことなり
一

いりあつた納言
細白梅も居るや
師白梅のせむい竹海寒
あつた居るは成りか
れんそむかのことなり
一

いりあつた納言
細白梅も居るや
師白梅のせむい竹海寒
あつた居るは成りか
れんそむかのことなり
一

は又とせとせの程も人ならぬよりくま
らひゆりえあうのめさうりじり藤
大納言とよらぬらぬもれ藤結
くれれゆあしひのくつひあま
皮れいん 梅本のついでに せむい竹海寒
ゆん 葉のそれより一年梅本にせむい
ららのさゆりそのありのあま
ど神のうりかりゆりさむい
とゆりあつた納言
くまとせゆりあつた納言
のさうよらんのお梅 梅本のついでに
よゆりあつた納言

いりあつた納言
細白梅も居るや
師白梅のせむい竹海寒
あつた居るは成りか
れんそむかのことなり
一

とらうをばりしうやうはつてきよめらんくわやうしうつらぬぢいやり
といかゝりのぢいやりいせされどやうしと水長生のぢいのはは琵琶琴
あまの古物をくめなつていぢいのあつたすうと意のあつたすうがうも
うよよとくにぢいやりしゆくはまはるううがうとありされど
そははあもせとくぢいのあつたすうとあつたすうしねはは文をこま
をよして解しやうしや

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

ひしもくくうらあま
えよてんえ海
一言もくくうらあま
ちりもくくうらあま
トク

アまのいしうれーさ
しとぢいりのま
孟意のうれーさ
八丈の地とく
まのいしうれーさ
よのいしうれーさ
孟八丈の地法のるに老
人とくして意のけり
か
姫君のいしうれーさ
如きくし弁のまれ
とちり推本のきり
系図とくくちり

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

あつたすうと八丈の地 地をよらう

松の世よかりきり
松とてふまの世よわれ
こそは松ののうまふ
とてなり
ゆらんこそまへに
まよふまへに
まよふまへに
まよふまへに

松の世よかりきり
松とてふまの世よわれ
こそは松ののうまふ
とてなり

とせりひまふつう代は松の世よかりきり
かりとらん松よまふかりぬらんせ
とてさりのもゆり今の何ふやま
ゆらんて朝夕のまふとてぬぬ
とてゆまのゆりかやま
しりめくまふれどまのま
色時ぐわのめを松をまらり
しりすうまのまらり
と念どゆりつらら
らんまようれいの世
いさうくく海まよ
まらり

松の世よかりきり
松とてふまの世よわれ
こそは松ののうまふ
とてなり
ゆらんこそまへに
まよふまへに
まよふまへに
まよふまへに

松の世よかりきり
松とてふまの世よわれ
こそは松ののうまふ
とてなり

松の世よかりきり
松とてふまの世よわれ
こそは松ののうまふ
とてなり
ゆらんこそまへに
まよふまへに
まよふまへに
まよふまへに

修験よくの跡しとく
かて別れり

細西海よりしこし私の
照とく 師は去るぬの思
こい小作後が別の思
あつよわくはげ文を
伝へるすの思とちが
つまきて

細の文とは兼のとり
てまきまき 師あり
ゆらよるぐーさど何と
きくまきまきしては文
とまきまき

もやとみずのきれ
まみ 師ありまきま
まーまきま

うらのぬめのまきま
ぬらん
抱忌の娘ハか入停止られ
ともあまこまねば美内

もまきまき
院の女一ま 師 今泉院
の女つまのぬらと母は
は女居の女

くまきまきまきま
細八ま修験のまきま
益八ま初く兼の山あり
の威夫よ山の海もぬら
ゆらまきまきま

皮の子のあつ
細柏木の判形あつらり
益柏木封しとまき

らんつらどよまきまき
かたはとて修の居けとるまきまき

あひまきまきまき
まきまきまきまき
ひまきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき
まきまきまきまき

せしがよりりりりり
うらみうらみんとかが
つらも
空海より田の田わつらも
あきつらんとくつらひ
てまわらんとくつらひ
ひーりりりりりり
らりりりりりりりり
益女の経つらつらつら
ーいんよつらつら

ひてぬいあつらんとかがりつらもつらつら
紐女にまゝ入る益女益女のまゝつらつらつら
どつらつらのつらつらつらつらつらつらつら
益女つらつらつらつらつらつらつらつらつら
よつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
益女つらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

